

お子さんが新型コロナウイルスに 感染したときの見守るポイント

お子さんの新型コロナウイルス感染症は、**1~3日程度のかぜ症状**ですむことがほとんどで多くの場合は軽症です。

ただし、のどの痛みなどで水分が取れなかったり、下痢が続いたりすることで、**脱水を起こすことがあります**（**脱水を防ぐために、口にできるものを少しずつでも、なんどもあげましょう**）。クループ症候群^{※1}や熱性けいれん^{※2}を伴うお子さんもいます。

基礎疾患のあるお子さんは、まずかかりつけ医に相談しましょう。

ここで紹介するポイントを参考にして、お子さんを**定期的に見守ってください**。

自宅で見守ってよい状態

熱が高く（38℃以上）咳があっても、水分が摂れていて、機嫌よく遊ぶことができ、顔色が普通であれば基本的に心配はありません。自宅で様子を見守れることがほとんどです。

受診相談をしたほうがよい状態（かかりつけ医や担当保健所）

- ・呼吸が苦しそう。（肩で息をする、ゼイゼイしている、咳で眠れない）
- ・呼吸が速い。（1分間に、乳児：50回以上、幼児：40回以上、学童：30回以上）
- ・声がかすれたり、犬の鳴き声のようなケンケンする咳がある。
- ・胸の痛み、動悸、息切れ、むくみなどがある。
- ・横になることができない、座らないと息ができない。
- ・水分がとれず、または嘔吐や下痢が頻回で、口の中が乾いている、半日以上おしっこがでていない。
- ・生後3か月未満の赤ちゃんで38℃以上の発熱が数時間以上続いている。

救急車を呼んだほうがよい状態

（その際に新型コロナウイルスにかかっていることは伝えてください）

- ・けいれんをしている場合。（手足を突っ張る、ガクガクする、眼が上を向いている）
- ・呼びかけに**反応が明らかに弱い**、または**返事がない**。
- ・ぐったりしており、**顔色が明らかに悪く**、**唇が紫色**になっている。

※1：クループ症候群

のどの奥が感染により腫れてしまうことで、声がかすれたり、犬が鳴き声のようなケンケンするかん高い咳がでたりする病気です。ひどくなると息苦しくなってしまう場合があります。クループ症候群を疑う症状がでた場合は医療機関を受診しましょう。

※2：熱性けいれん

お子さんが発熱した際におこる、けいれん発作です。多くの場合は数分程度でおさまり、過剰な心配は不要ですが、髄膜炎など別の病気が隠れていないか判断する必要があるので、けいれんした場合は医療機関を受診しましょう。

受診相談 鹿児島県：コロナ相談かごしま ☎ 099-833-3221 24時間対応

小児救急電話相談 ☎ #8000 平日・土曜日 午後7時~翌朝8時
日曜日・祝日等 午前8時~翌朝8時

受診・相談センター（お住いの地域にある保健所）

※こどもの救急ホームページ（日本小児科学会）もご活用ください

こどもの救急HP

